

課題別分科会 第2分科会

指導助言者

吉田等明先生 岩手大学教育学部 教授

坂本大先生 岩手県立総合教育センター 主任研修指導主事

技術C 生物に関する技術

1. 研究部基調提案

県研究副部長 伊東賢治 (紫波町立紫波第一中学校)

2. 実践発表

(1) 和賀地区 及川徹 (北上市立北上中学校)

(2) 宮古地区 藤村和洋 (宮古市立宮古西中学校)

(3) 九戸地区 八木稔和 (久慈市立久慈中学校)

(4) 二戸地区 戸舘一治 (一戸町立一戸中学校)

技術D 情報に関する技術

1. 研究部基調提案

県研究副部長 西野淳一 (奥州市立江刺第一中学校)

2. 実践発表

(1) 一関地区 一関地方技術・家庭部会

第2分科会

C 生物育成に関する技術

D 情報に関する技術

運営責任者 伊 東 賢 治(紫波・紫波一)
司 会 者 法 貴 裕 誠(盛岡・仙北中)
記 録 者 吉 野 裕(盛岡・城東中)
参加者数 30名

1 開会のことば

2 講師・司会・記録者の紹介

3 発表

(1) 「C 生物育成に関する技術」

① 基調提案

「学んだ知識・技術を活用し、より良い生活を求めて実践する力をはぐくむ授業の研究」— 共に学ぶ活動を通して— 岩手県技術・家庭科教育研究会生物育に関する技術班 発表者 伊東賢治(紫波一)

② 和賀地区

「生物育成に係わる評価についての実践」 発表者 及川 徹(北上中)

③ 宮古下閉伊地区

「学んだ知識・技術を活用し、より良い生活を求めて実践する力を育む授業の研究」— 共に学ぶ活動を通して— 発表者 藤村 和洋(宮古西)

④ 九戸地区

「水産生物の栽培授業を進めるためには」 発表者 八木 稔和(久慈中)

⑤ 二戸地区

「学んだ知識・技術を活用し、より良い生活を求めて実践する力を育む授業の研究」— 共に学ぶ活動を通して— 発表者 戸館 一治(一戸中)

(2) 「D 情報に関する技術」

① 基調提案

「学んだ知識・技術を活用し、より良い生活を求めて実践する力をはぐくむ授業の研究」— 共に学ぶ活動を通して— 岩手県技術・家庭科教育研究会情報に関する技術 班

発表者 西野 淳一(江刺一)

② 一関地区

「「D 情報に関する技術」についての授業実践」— 一関地区での各校における授業実践— 発表者 五十嵐(東山中)

4 質疑・協議

・マイクロソフトのパスワードチェッカーはどのようなものか、「カスペルスキーラボ」が最近のソフトでは、詳しいところまでチェックしてくれる。おすすめソフトとしてお知りおきいただきたい。(岩手大学 吉田先生)

5 助言・指導者

○金澤 俊成先生(岩手大学教育学部 准教授)
新指導要領について二点申し上げたい。

一点目は、露地栽培、容器栽培、施設栽培、どのような時期に、場所に栽培をするか。学校によって制約が多い。容器栽培はある意味難しい。環境に任せなくてはならない。うまくいかないことに技術がかかわるわけだが、なかなかうまくいかない。露地栽培や施設栽培は、やり

やすいのではないか。露地と施設栽培を分けて考えて授業に臨んでほしい。水耕栽培ではどんなことを選んで、どんな変化が現れるかを見取り、学習活動とする。

二点目、比較することを記録すること。見ただ目で比べることも変化は大きいとかあると思う。観察することは重要であり、数字で表せるものと、数字で表せないものがある。たとえば色とか元気であるとか。重さのように数字で表せるものもある。失敗したとしても、比較することで学びになる。記録することは大事なこと。写真を活用して記録する。写真と同時にどこに特徴があるか記録を取っておく。見るポイントに重要なポイントがある。

小学校の生活科では、芽欠きを忘れたものときちんとしたことを記録、比較していくことから学びがあるのではないだろうか。これからの授業に生かして行ってほしい

○馬場 美輝彦先生(県北教育事務所 指導主事)

結論を最初に言いますが、授業づくりでは、具体的に生徒がどんな姿になるかというビジョンを持って臨むことが大事だと思う。また、先生方の連携を大事にして研究を進めてほしい。そして授業の指導の在り方、学習指導の在り方の見直し、大事に授業にして行ってほしい。

課題発見能力から、実践力を培うためにとある。思考力や判断力を通して、学んだことを話し合うということがやはり大事である。どのような学びをするのか、どのような手法で話し合うのか。話し合いの方法についてはこれからの課題ではないだろうか。

栽培においての具体的な評価の明確なビジョンを持つことが大事である。

目の前の生徒が何を知っているのか、何ができるのか、知ってから学習を進めていくことが

必要ではないだろうか。

雲丹の育成については一緒に進めていきたい。岩手の技術の歴史が大会紀要に載っている。岩手の研究は最先端だと思う。情報の領域においても授業実践をもとに各学校でできるのではないだろうか。

会話的学びについてこれから研究を進めてほしい。

レディネスについて、実態把握が一番だと思う。小学校ではこれからプログラミングが出てくる。小学校とあるいは高校とも連携を取っていく必要がある。

「人工知能が医者にアドバイス（岩手日報：子供新聞から）」という記事があった。コンピュータは計算能力や記憶能力では人間の能力を上回る。だからこそ、知識だけの習得だけではなく、新しい技術の価値観を提示していく必要があると感じる。たくさんある情報の、どの情報が大事か生徒たちに提示していくことが大事だと思う。

6 閉会のことば